

带状疱疹ワクチンの定期接種について

2025 年 4 月から 2 種類の带状疱疹ワクチンが予防接種法に基づく定期接種の対象となりました。これらは効果や価格に大きな差がある上、自治体によっては以前から独自の助成が存在し、定期接種の条件や費用も自治体ごとに異なります。また、各ワクチンは、接種回数や接種方法、接種スケジュール、接種条件、効果とその持続期間、副反応などの特徴が異なります。そこで、今回带状疱疹ワクチンの定期接種について取り上げました。

【接種の対象者】

以下に該当する方が対象となる。

- 65 歳を迎える方
- 60～64 歳で対象となる方(※1)
- 2025 年度から 2029 年度までの 5 年間の経過措置として、その年度内に 70、75、80、85、90、95、100 歳(※2)となる方も対象となる。

※1: ヒト免疫不全ウイルス(HIV)による免疫の機能に障害があり、日常生活がほとんど不可能な方

※2: 100 歳以上の方については、2025 年度に限り全員対象となる。

【使用するワクチンとそのスケジュール】

带状疱疹ワクチンには生ワクチン、組換えワクチンの 2 種類があり、いずれか 1 種類を接種する(赤字: 当院採用品)

○ 生ワクチン(乾燥弱毒生水痘ワクチン「ビケン」®)

皮下に 1 回接種

○ 組換えワクチン(シングリックス®)

2 か月以上の間隔をあけて 2 回筋肉内に接種

※病気や治療により、免疫の機能が低下したまたは低下する可能性がある方等は、医師が早期の接種が必要と判断した場合、接種間隔を 1 か月まで短縮できる。

【ワクチンの効果】

いずれのワクチンも、带状疱疹やその合併症に対する予防効果が認められている。

带状疱疹に対する効果	生ワクチン	組換えワクチン
接種後 1 年時点	6 割程度の予防効果	9 割程度の予防効果
接種後 5 年時点	4 割程度の予防効果	9 割程度の予防効果
接種後 10 年時点	－	7 割程度の予防効果

合併症の一つである、带状疱疹後神経痛に対するワクチンの効果は、接種後 3 年時点で、生ワクチンは 6 割程度、組換えワクチンは 9 割以上と報告されている。厚生労働省ホームページより

【ワクチンの安全性】

ワクチンを接種後に以下のような副反応がみられることがある。(※ワクチンを接種した部位の症状)

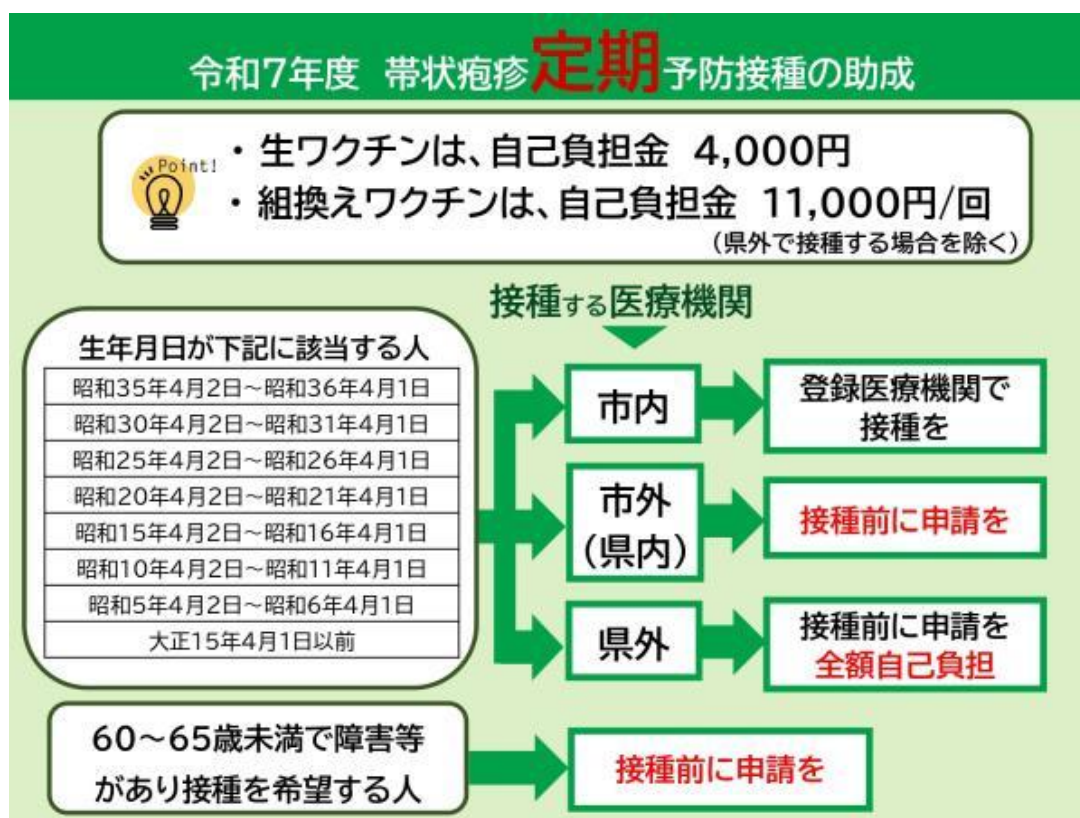
主な副反応の発現割合	生ワクチン	組換えワクチン
70%以上	－	疼痛※

30%以上	発赤※	発赤※、筋肉痛、疲労
10%以上	そう痒感※、熱感※、腫脹※、疼痛※、硬結※	頭痛、腫脹※、悪寒、発熱、胃腸症状
1%以上	発疹、倦怠感	そう痒感※、倦怠感、その他の疼痛
頻度不明	アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、無菌性髄膜炎	ショック、アナフィラキシー

厚生労働省ホームページより

【自治体による取扱いの例（奈良市）】

自治体や医療機関により取扱うワクチンが異なる場合があります、自治体から助成金が出る場合があります。
奈良市の場合、生ワクチンは自己負担金 4000 円、組換えワクチンは 11000 円/回となっている。



奈良市ホームページより

自治体ごとに対応が異なるので定期接種を希望される場合は、お住いの自治体のホームページ等でご確認ください。

参考文献

厚生労働省ホームページ
奈良市ホームページ